

Intertek

Vol.57 (2017年7月発行) **News**

ISO関連季刊情報誌(年4回発行)

CONTENTS

01 仕事をする人の美しさ

02 特集

03 既存プロセスの明確化から始める プロセスアプローチ

～ISO9001:2015年版規格への移行の鍵～

04 News&Topics

- ▶ BA全体会議 in ロンドン
- ▶ 新セミナーのご案内
- ▶ JACB 活用事例集発行
- ▶ Information: Vision & Missionのご紹介

05 審査の現場から

- ▶ お客様紹介
(伯方塩業株式会社)

06 連載よみもの

- ▶ 審査員リレーエッセイ
「ISOマネジメントシステム運用成果の自覚について」
(審査員 清水 治夫)
- ▶ 環境とISO14001
「SDGsへの企業行動指針」

07 お客様からのお便り

- ▶ 「佐渡島に貢献」
(サンアロー化成株式会社)
- ▶ 「2015年版で2回目の審査を終えて」
(岡田建設株式会社)

08 研修コースのご案内

- ▶ ちょっといつぶく
- ▶ コース案内
- ▶ 受講生からのお便り
(三景産業株式会社)

インター・テック・ワーティフィケーション株式会社

発行 大阪事務所 ◇本誌に関するお問い合わせは大阪事務所まで◇

◆Intertek Newsのバックナンバーは弊社ホームページでご覧頂けます。

<http://ba.intertek-jpn.com/>

仕事をする人の美しさ

なるけ ひでお
QMS認証部 スキームマネージャー 成毛 秀雄

皆様も経験があると思いますが、熟練した作業者が実際に仕事を行っている姿がとても美しいと感じたことはありませんか。身体、手足の動きに無駄がなく、適切な距離感をもち、対象物の観察を素早く行い、ときにはリズミカルな動きで一定したペースにより目的に向かって仕事がどんどん進められていきます。



また、仕事がチームによる場合があります。このようなときにもチームのメンバーの役割がきちんと決められており、それぞれのメンバーは、調和のとれた動きとともに仕事が次々と進んでいきます。仕事がまだ終了していない部分とすでに終了した部分、また、材料が速やかに加工され完成品に一歩、一歩近づいていくのが目に見えます。あたかも人間が元来もっている「仕事」をやり遂げるという意思が、具現化、視覚化されているように見えます。

このような場面を見ていると、商売柄、これは品質マネジメントシステム、また、製品実現のある重要な部分が、目前で展開されているような感慨があります。充分な力量、職務の重要性の認識、顧客重視の考え方、責任感、適切な手順、妥当な監視と測定、よく整備された設備、道具、また、遵法精神、仕事に対する良心、コミュニケーション、できばえのチェックなどの要素が有機的に関連し、なにかをやり遂げようとしている作業者の姿があります。思わずじっと見つめてしまうことがあります。私が子供の頃には、大工さんがかんなやのこぎりを使っている、職工さんが機械で加工品を作っている、塗装屋さんがペンキを塗っている、鍛冶屋さんが赤熱した鉄片をたたいているなど、今は少なくなってきたいる業種もありますが、興味を持って見つめていたことを思い出します。また、必ずしも身体の動きがなくとも、測定器・分析器の数値を見つめる厳しい視線、また制御システムを監視するオペレーターの緊張感。責任をもって仕事をする人を感慨をもって注視し、ある感動を覚えることがあります。審査員として「現場を見る」とはこのようなことを観察しているのかと思います。

特集

既存プロセスの明確化から始めるプロセスアプローチ —ISO9001:2015年版規格への移行の鍵—

インターテック品質主任審査員
加濃 彰

2015年版ISO9001では、プロセスアプローチをより一層鮮明にし、プロセスのパフォーマンス指標を決定することが求められます。今回は、それにどう取り組んだらいいのか、事例を交えてご紹介します。移行準備に向けてお役立て頂ければ幸いです。

(編集部)

1

プロセスとプロセスアプローチの事例

規格の序文にある「図1—単一プロセスの要素の図示」を“見積書の作成—内装リフォーム”を“活動”として示すと下の図1のような事例となります。

“活動:見積書の作成”に対して“インプットの源泉:顧客”“アウトプットの受領者:顧客”として赤文字で示していますが、それぞれが多岐にわたることもグレーの文字で示唆しています。

また、“インプットの源泉”“アウトプットの受領者”によって、“インプット”並びに“アウトプット”的内容とその詳細さが異なることは、例えば、“アウトプット”的一つである「工程表」が、その“受領者”が顧客か協力会社かによって、その目的も含めて異なることも理解できます。

この“单一プロセス”を“内装リフォーム”という一連の活動をプロセスとして考えて図を描くと、内装工事会社のウェブサイトなどでも見かける次ページの図2のようなプロセスアプローチがイメージされます。

また、組織の事業活動においては、ルーティンとして日々、週間、月間、四半期、半期、年度を単位とした活動もプロセスとして捉えることができ、図3・4のような事例も示すことができます。

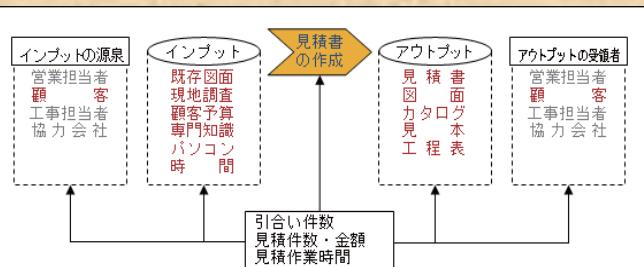


図1 見積書の作成—内装リフォーム

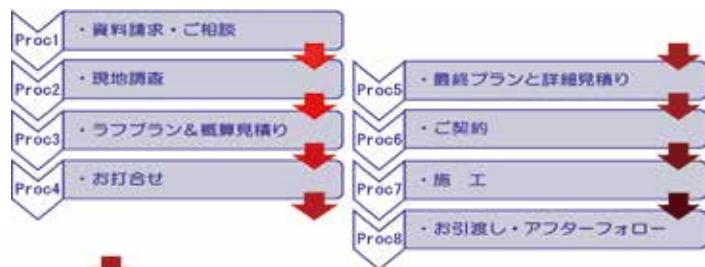


図2 内装リフォーム

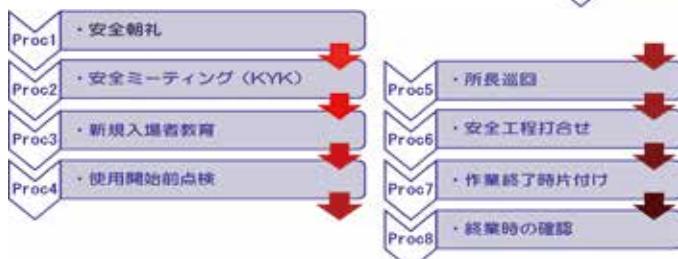


図3 建設現場における安全工程サイクル

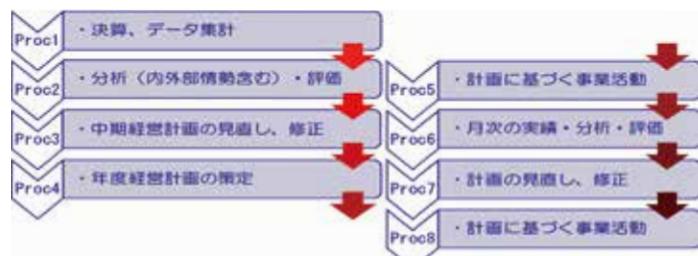


図4 経営計画・実行プロセス

2

おわりに

事例のとおり組織には、事業活動に対応したプロセスが存在していることを前提として、プロセスは“構築”するのではなく、既存プロセスの“明確化”が要求であることに注視する必要があります。

この“明確化”的過程においては“理想／あるべき論”に惑わされないように注意を払いながら、組織の現状に沿ったプロセスの洗い出しが重要となります。明確にされた既存プロセスのどの部分に規格要求に対応する活動が含まれているのかを確認すると、恐らく想定以上に対応している実態に気付くでしょう。これは、この規格があらゆる標準的な組織がとり得る活動を規定していることを考えれば当然の結果といえるでしょう。

また、規格への適合性、その意図するところの有効性については、それを満たしていない状態も含んでいることを認識することも、この“明確化”においては重要なポイントとなり、明確にされた既存プロ

セスに、該当する規格要求を適用し、複数のプロセスの相互関係を理解し組織をマネジメントすることは、個々並びに複合的なプロセスの適合状態を確保すると共に、結果として組織のプロセス、事業活動の改善、並びに、意図する成果に繋げることが可能となるのです。

プロセスアプローチを理解、適用することによる規格追随型のシステムからの脱却が、組織のパフォーマンスを向上させ、2015年版規格への移行を成功させるだけでなく、組織の事業活動を成功に導く鍵となるでしょう。

筆者紹介

加濃 彰(かのう あきら)

建設・建設設計・開発・経営・建築・ITコンサルティング専門。

ISO9001品質主任審査員。
千葉県我孫子市在住。





BA全体会議 in ロンドン

5月8日から4日間、英国ロンドンのインター・テックグループ本社で、各国認証部門(BA:Business Assurance)のトップ会議が行われました。日本のインター・テックサーティフィケーションからは、代表取締役の坂井喜好が参加、各国のトップと熱い意見交換が行われました。

毎年開催される全体会議を通して、部門・グループ全体での取組み事業の更なる推進や改善、またサービス向上に活かしています。



会議風景

新セミナーのご案内

研修部では、様々なセミナーをご提供したいという趣旨から、ISO以外のセミナー第一弾として「アンガーマネジメントセミナー」、「クレーム対応向上セミナー」を開催し、好評をいただきました。第二弾としまして、ヒューマンエラーに関するセミナー、「ヒューマンエラー発生メカニズムと未然・再発防止策およびそのポイント」をご案内いたします。

ヒューマンエラー防止は、「安全」はもとより「品質」という観点からも重要です。「最近ヒューマンエラーが多発する」「同じようなヒューマンエラーが再発する」といったことはありませんか?それは、ヒューマンエラーの真の原因を掴んでいないからかもしれません。

本セミナーでは、ヒューマンエラーについての基礎知識から、起これり得るヒューマンエラーの洗い出しやそのリスク評価の方法、さらに発生した場合、どのように真

の原因を追究するか、その対策の考え方まで、演習を交えて学びます。

ご興味のある方は、弊社ホームページをご覧頂くか、お気軽に研修部へお問い合わせ下さい。

JACB活用事例集発行

日本マネジメントシステム認証機関協議会(英文名称:Japan Association of Management System Certification Bodies、略称:JACB)は、日本国内で事業活動を行い、IAF(国際認定機関フォーラム)加盟の認定機関により認定されたマネジメントシステム認証機関の協議会です。

JACBは、マネジメントシステム第三者認証制度の発展及び普及に努め、様々な活動を行っており、当社も加盟しています。先日、2016年度JACBマーケット調査委員会の活動報告で、認証機関からみた有効活用事例集を発行されました。ISOを活用して成長する企業35社の事例が紹介されており、JACBのホームページでご覧いただけます。
(<http://www.jacb.jp/index.html>)

INFORMATION

インター・テック・サーティフィケーションのVision & Mission

前号でご案内させていただきましたように、インター・テックグループのコーポレートシンボルマークが変更になりました。これを機に、あらためて、弊社の理念、及びVision（目標）・Mission（使命）についてご紹介させていただきます。

Drive Your System: Your System Generates Action and Innovation. (システムを高速回転して、そのシステムからアクションとイノベーションを誘発する)

事業を行っていれば必ず失敗などの問題が発生します。ISOはそれらを蒸気の如くエネルギーとしてタービンを駆動させ、シャフトでつながった発動機を回し、電気の如く改善を出力する発電所のようなものだと考えています。ドライブしなければ錆が生じたり、故障の原因にもなります。問題なく駆動しているのかどうかの確認が維持審査であり、私どもはそのお手伝いをさせていただいております。

「現場にしか答えはない」との考え方から現場主義に基づいた審査、そしてお客様のシステム改善につながる審査を基本に、あくまでも効果に関心を持ち、常にお客様のマネジメントシステムの品質を高め、イノベーションを起こすような鼓舞する審査を目指しています。

Vision

インター・テック・サーティフィケーションは、日本を支える小規模組織に付加価値をもたらす審査登録機関のリーダーになることを目指す。

Mission

インター・テック・サーティフィケーションは、認証を通して小規模組織の未来に変革と付加価値をもたらすことを理念とし、さらに効果のある審査で継続的改善を促す触媒として役立つ使命を持つ。



お客様紹介

伯方塩業株式会社様

(ISO9001:2008、ISO14001:2004、ISO22000:2005
認証登録)〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

瀬戸内海(愛媛県)「伯方の塩」は、自然塩存続運動から始まりました。昭和46年、日本で親しまれていた塩田塩が「塩業近代化臨時措置法」の成立で全面的になくなり、塩化ナトリウム99%以上の過精製塩=イオン交換膜製塩が出回ることになりました。それに対し、不安を抱いた有志が塩田塩を残すため自然塩存続運動を起こし、5万人の署名を集め、国会、関係省庁へ請願しました。運動の結果、塩田を残す事はかないませんでしたが、生産上の厳しい条件付きで、昭和48年、塩専売公社より自由販売塩として製造を託されました。これが現在の「伯方の塩」です。

「伯方の塩」の特徴は、「塩かどのないからさ」で、塩味の中にほんのりとした甘さを感じるのが特徴です。「にがり(苦汁)」をほどよく残し海水中の成分を生かしてつくった風味です。塩化ナトリウム100%に近い塩のように「にがり」が極端に少ない塩の味は塩からいだけで、反対に海水の成分そのままの塩や「にがり」が多すぎる塩は苦味が強いものです。海水から塩をつくりた日本人は、昔から「にがり」をほどよく残す、という苦労がありました。「伯方の塩」は日本の製塩史上、食用に優れていると言われていた「流下式塩田塩」(昭和28年～47年まで瀬戸内海沿岸で製造していた製法の塩)をお手本にされています。そして、今も食用に適した素晴らしい塩を求め続けられています。

各工場と本社でISO9001、14001、さらに各工場(伯方、大三島、明浜)でISO22000を取得されています。3年間の内部監査では100件近い指摘事項が出されており、水平展開確認書が活用されています。特にISO22000の審査では異物混入、フードディフェンス面などから、より完璧を目指す為の指摘になりました。高レベルな工場であるからこそその不適合も提起され、是正対応完了済



流下式枝条架併用塩田

みです。「伯方の塩」は、にがり成分がほどよく残っているのが特徴で、その性質上、湿度・気温等の外的要因で製品の水分量が日々変化します。金属検出機は、製品の水分量によって検出感度に違いがある為、製品毎の条件設定など、細心の配慮が行われます。

「工場見学」もISO9001の認証範囲に含まれており、お盆と年末年始など以外、年間約350日受け入れられ、見ごたえがあります。



大三島工場 見学風景



大三島工場（愛媛県今治市）



審査員リレーエッセイ ⑤

審査員からのエッセイをお楽しみください。

From

京都府宇治市

清水 治夫

(しみず はるお)



Profile

専門分野：ISO9001－電気、機械、建設

経歴：東洋電機製造株式会社、インターテック
審査員（現職）

「ISOマネジメントシステム運用成果の自覚について」

“ISOマネジメントシステム運用が真に経営への成果が出て居るかどうか”を時系列で観察しながら運用されることが大切でしょう。

例えば、取組んだ目標とその達成率、プロセスの監視結果、生産性評価指標、顧客満足の結果（クレーム含む）、社内の不適合、内部監査の結果、審査機関による審査結果、供給者責任の不適合

等々の得られたデータを、単年度あるいは前年度との比較だけに終わることなく、出来るだけ長期間に亘って“時系列”に整理されて継続的改善の状況を把握されながら運用されることが大切でしょう。

この観察項目はトップマネジメント・事業部長・部長・課長・係長・職場長等それぞれの階層で存在しますので、運用の成果がどうなっているかはあなた任せではなく“自分の健康状態は自分自身がまず知るべし”的視点に立って自部門の状態を“時系列”に観察されることにより、それが次に取り組むべきアクションが見えて来ることでしょう。



連載「環境とISO14001」⑤

「SDGsへの企業行動指針」

環境主任審査員 郷古 宣昭

Nobuaki Goto

ESG(環境・社会・ガバナンス)課題として示されたグローバル目標SDGs(持続可能な開発目標)への企業取組み指針である「SDGコンパス」について解説します。

1. SDGsとは(復習)

企業の事業活動の目的については、リーマンショックを機に短期的な「利益追求」から中長期的な視点での「価値創造」に変わりました。「価値創造」とは、企業活動により社会に幸福をもたらすこと、及び/又は現存する環境や社会問題への解決に寄与することです。

国連は「国連責任投資原則」を発表し、機関投資家に対し、投資先にESG(環境、社会、ガバナンス)課題の実践を要請することを要求し、同意のサインを求めました。2014年には日本においても、金融庁により日本版スチュワードシップ・コードが策定され、ESGへの取組みの重要性が認識されるようになりました。

一方、国連は低開発国向けのMDG(ミレニアム開発)の成果を背景に對象を全世界に広げ、2030年の達成を目指すSDGs(持続可能な開発目標)として17項目の目標と196のターゲット(個別目標)を設定しました。この中には「地球環境の破滅的状況からの回避」「貧困の撲滅と格差の是正」「すべての人々の水と衛生の利用」「持続可能な経済の発展と働きがいのある雇用」等の今日的な問題も含んでいます。

2. SDGsコンパス

「SDGsコンパス」が環境省のホームページに発行されていて、次のような企業の取組みの5つのステップが示されています。

STEP.1 • SDGsを理解する

STEP.2 • バリューチェーンをマッピングし、影響領域を特定する

- ・指標を決め、データを収集する

- ・優先課題を決定する

STEP.3 • 目標範囲を設定し、KPI(主要業績評価指標)を決定する

- ・ベースライン(基準年等)を決定し、目標を設定する

- ・SDGsへの企業のコミットメントを公表する

STEP.4 • 目標を中心事業に統合し、ターゲットを各部門に組み込む

- ・バリューチェーン等をパートナーシップに取り込み、実行する

STEP.5 • 目標達成度を利害関係者に報告し、コミュニケーションする

特に注目することは、STEP.2のバリューチェーン全体を通して現在及び将来の正及び負の影響を評価し、優先的に取り組む課題を決定すること、及びSTEP.5の活動成果を利害関係者に報告することです。

「バリューチェーン」とは「原材料の採掘からサプライヤー、調達・物流、操業、販売・配送、製品使用、製品廃棄に至る関係者の全体」であり、「正及び負の影響を評価する」とは環境の分野では「ライフサイクルの視点で環境側面及びその影響を評価する」と同じ意味になります。「利害関係者への報告」は情報開示や国際的に認知された報告様式に関連して説明を要する部分ですが、またの機会にします。

以上の一連の流れはISO14001での取り組みと同じであることに気づきます。もっと言えば、EMSの運用はSDGsに取り組む企業が増えていることからSDGs運用の中で行われるようになるかもしれません。

次回は急速に変わりつつある「環境側面」について考えてみます。

佐渡島に貢献

サンアロー化成株式会社 (ISO14001 : 2004認証登録)

総務課 関口 衆

No.01
Letter

サンアロー化成株式会社は、1973年に設立し、工業用ゴム製品・時計用ゴムパッキンの製造から始まり、パソコン、固定電話、携帯電話の部品製造と事業を拡大してきました。さらに高機能性・高意匠性を両立させた製造技術を活かして医療分野、自動車分野への参入にも取り組んでいます。

2004年にはキーシート、工業用ゴム製品の製造でISO14001を取得しました。他には、第一工場でISO13485（カテーテル固定用パッチの製造）、グループのタイ工場でIATF16949を取得しています。

また、自社製品のトッキッキシリコーンコースターの売上の一一部を「新潟県トキ保護募金」へ募金させて頂いております。今後も地元である佐渡島の企業として、少しでも佐渡島に貢献できるようにこの様な取り組みを継続

して行いたいと思っております。

今後、ISO14001:2015への移行に向けて規格移行説明会などに参加して従来の規格との相違点を理解することに努めています。



本社工場（新潟県佐渡市）

<http://www.sunarrow-kasei.co.jp/>

2015年版で2回目の審査を終えて

岡田建設株式会社 (ISO9001 : 2015、ISO14001 : 2015認証登録)

常務取締役 岡田 智哉

No.02
Letter

当社は昨年すでに2015年版統合審査を受審し、今年は2015年版で2回目の維持審査でしたが、2015年版審査も慣れればそれほど負担はありませんでした。

鳥居をくぐると広がる馬場。お供馬の走り込みで有名な愛媛県菊間祭り開催地、加茂神社の境内に当社はあります。そんな珍しい立地環境のため培われてきた地域密着の取り組みに重点をおいた活動を行っています。平成27年度の県工事(ため池工事)で県知事表彰を頂いた施工で活躍したのは、ZX200LC通称スーパーロング18m級。この機械は、かゆい所に手が届くと言う言葉が似合う重機です。安全かつ施工が早く作業員の疲労を軽減させることができました。

当社の門前で毎年10月第3日曜日には、地方祭(お供馬の走り込み)が開催されます。祭りの開催前には、参道整備、散水等をおこない、愛媛で一番の祭りを目指して貢献しています。

社長は、四国88カ所のお接待場所を仲間と国道196号線沿いに設置し「ぶじかえる」を念じたカエルの焼き物を

手渡しています。近年の建設業の人手不足を何とか解消したいとハローワーク等に雇用を求めていますが、なかなか実現しないので、自社生産しようと頑張った結果…6月には双子が誕生する予定です。これで2名の雇用に成功(笑)。来年の維持審査までには、会社をパワーアップ、より良い環境にして、地域とともに歩んでいきたいと思います。



上) 竣工後の鈴ヶ谷池（愛媛県今治市）
下) ZX200LC (スーパーロング)

<https://www.okada-kk.com/>



空

に現れると思わず見入ってしまう虹。7月16日は「虹の日」です。虹は大気中の水滴に太陽の光が屈折、反射されてできる現象です。梅雨明けのこの時期の空に大きな虹がよく見られることから、虹の七色(七=なな=7、色=いろ=16)にかけて、デザイナーの山内康弘氏によって制定されました。この日は『人と人」「心と心」「自然と人」「世代と世代」が虹のようにつながる日に』との思いが込められているそうです。

虹の色は7色(赤・橙・黄・緑・青・藍・紫)と言われますが、世界的には色の認識が違う国によってバラバラだそうです。例えばアメリカでは一般的に藍色を抜いた6色で表現されることが多く、日本でも古くは5色とされていたそうで、7色となったのは、ニュートンの学説によるものとのこと。万有引力で有名なニュートンは光学の研究でも有名で、可視光線をプリズム分解したときに、当時神聖な数と考えられていた7と、当時の学問の一つである音楽を関連付け、音階(ドレミファソラシド)の7音に合わせて7色と決め、これが明治時代に日本に伝わってからと言われています。

ちなみに、アップル社のリンゴのロゴマークは現在は単色ですが、以前は6色を使ったレインボーカラーでした。これはディスプレイがフルカラー

だったことを表したものでしたが、配色は虹とは異なっていました。既成概念にとらわれないことを意味していたとの説もありますが、ロゴをデザインしたジャノフ氏によると、当時冷たくネガティブなイメージだったコンピューターを温かくポジティブなイメージにしたかったとのこと。また、リンゴの右上がりにかじられたように欠けているのは「かじる」という意味の英語「bite」と情報単位の「byte」をかけたデザインと言われていますが、実際は、他の丸い果物と見間違われないよう、リンゴに見えるシルエットにするために一口かじったデザインにされたそうです。

ところで、虹が見られるのは昼間だけではないのをご存知でしょうか？月の光で作られる虹で、「月虹(げこう)」と呼ばれています。英語では、「ムーンボーイ」「ナイトレインボー」とも呼ばれ、レインボー・ステート(虹の州)と呼ばれるほど出現率の高いハワイでは、古来より見た人は幸せになれると言われ、最高の祝福として言い伝えられています。また、ダブルレインボーと呼ばれる二重の虹も珍しい虹であることから幸運のサインと言われています。空に現れる様々な美しい自然現象に期待して、時には空を見上げてみるといつもと違った景色に出会えるかもしれませんね。

(参考:虹の日公式HP、神田雑学大学HP、Logo Design Love Site)

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

● 内部監査員コース

9001／14001／18001／27001／39001 (2日間)

開催地 東京・大阪・名古屋・浜松・富山・金沢・新潟・福井・他

対象者

- 品質／環境／労働安全衛生／情報セキュリティ／道路交通安全マネジメントシステムの導入を予定／検討している
- システムをより効果的に運用したい
- 効果的な内部監査を行いたい

移行対応セミナー

ISO9001:2015、ISO14001:2015へのスムーズな移行に向けて、規格要求事項の考え方、各条項の詳細内容と解説、重要ポイントなど、演習を交えて分かりやすく解説します。モデルケースの解説を元に具体的な対応策をご理解頂けるような内容になっています。

● ISO9001:2015 移行対応セミナー (1日間)

● ISO14001:2015 移行対応セミナー (1日間)

開催地 東京・大阪・名古屋・浜松・仙台・青森・他

対象者

- ISO9001:2008／ISO14001:2004を既に運用している
- 管理責任者、内部監査員(中～上級者向け)

*弊社ホームページよりお申込み頂けます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からの
お便り

ISO14001:2015内部監査員コースを受講して

環境内部監査員コース(2017年6月大阪会場)受講

三景産業株式会社
神戸営業本部 三原 和弘

当社は昭和25年の設立以来、専門技術商社として、産業用機械・資材、樹脂プラスチック製品、医薬・食品関連設備、物流システム、空調システムなど幅広い商材を提案・提供しております。

今回はISO14001:2015への移行に伴う2回目の受講でしたので、前回からの変更内容の確認も踏まえて受講させて

頂きました。グループワークは前回受講時とほぼ同じ設定内容でしたが、忘れてしまっている事が多数あり、このような機会で定期的に学習する事の重要性をあらためて気付かされました。グループワークがプログラムにうまく配置されており、眠気を誘われる事もなく、演習で講義内容の理解をより深める事ができました。

今月末に内部監査が実施される為、今回の研修で学んだ事を早速活かし実践すると共に、マネジメントシステムが社内で効果的に運用される様サポートしていきます。

インターテック・サーティフィケーション株式会社 <http://ba.intertek-jpn.com/>

東京事務所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル TEL: (03) 3669-7408 FAX: (03) 3669-7410 E-mail: info.ba-japan@intertek.com
大阪事務所 〒532-0003 大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F TEL: (06) 6150-0571 FAX: (06) 6150-0575 E-mail: info.ba-osaka@intertek.com